



Title	北米合衆國に於ける入移民並入移民政策
Author(s)	矢島, 武
Description	研究
Citation	北海道帝國大學法經會法經會論叢, 8, 185-207
Issue Date	1940-03
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/10680">https://hdl.handle.net/2115/10680</a>
Type	departmental bulletin paper
File Information	8_p185-207.pdf



# 北米合衆國の入移民並びに入移民政策

矢 島 武

## 目 次

はしがき

- 一、合衆國に於ける移民流入史
- 二、「舊」移民と「新」移民
- 三、入移民の地理的分散状態
- 四、各産業への移民の分散状態
- 五、移民の影響
- 六、他國への入移民との關係
- 七、移民制限論
- 八、移民政策の再建
- 九、アメリカ化の方法

## は し が き

現在滿洲國は非常な勢をもつて移民を吸收しつゝある。滿洲國が之等の入移民を如何に取扱ふかと云ふことは滿洲國にとつてのみならず、日本にとつても重大な關心事である。然るに現在の滿洲國の入移民問題とアナロジカルな經驗を過去に於いてもつたのは北米合衆國である。この意味でアメリカの經驗は滿洲國の移民政策にとつて極めて役立つものをもつて居ると考へられる。抑々アメリカの移民最盛期は次表に示す如く一九〇一—一九〇二年であつて、之れはアメリカ産業の最盛期に一致するものである。一方滿洲國の移民が盛んになつたのは一九二〇年以後であつて、之れも滿洲國産業の發展と歩調を一にして居る。従つて私は本論稿では主として本世紀初頭の

事實を對象として觀察しようと思ふ。然し本稿はもとより資料の爲めのモノグラフィキに過ぎぬことを斷つて置かねばならぬ。又他系民族たるアジアよりの移民についても記述を割愛した。

合衆國入移民 一八二〇—一九三〇

期	間	移	民	數	比	率	期	間	移	民	數	比	率	期	間	移	民	數	比	率	
一八二〇—三〇		一五、八二四		四・三	一八六—七〇		二、三四八二四		六・四三	一九〇—一九一〇	八、七九五、三六六		二四・三九								
一八三一—四〇		五九、九二五		一・六六	一八七—八〇		二、八三、一九一		七・八〇	一九一〇—一九二〇	五、七五、八二一		一五・九一								
一八四一—五〇		一七、三二五		四・七五	一八八—九〇		五、四六、六三三		一四・五五	一九二〇—一九三〇	二、四四、八三三		六・七								
一八五一—六〇		二、五八、二二四		七・二	一九〇—一九〇〇		三、六七、五六四		一〇・二二	合	計	三六、〇九九、六三五		一〇〇・〇〇							

一、合衆國に於ける移民流入史

合衆國の廣大な領土の開發によつて生じた大きな經濟的機會は歐羅巴に於ける半ば政治的な半ば宗教的な半ば經濟的な原因と結合して、前世紀中史かつて見ざる多數の移民の群を事實上總ての歐洲諸國から合衆國へと招徠したのであつた。最初の移民統計をとつた一八二〇年と一九一八年との間に三三、〇五八、九七一一人の移民が合衆國に一時のか又は永住的の棲家を求めて渡來したのである。而も其の半數は一八九〇年以降に渡來したものである。一八二〇年以前には合衆國への移民は恐らくは大した割合に上らぬ様に思はれる。否一八四〇年迄は移民數は比較的にかつたのである。即ち一八三九年の移民數は六八、〇〇〇に過ぎなく、一八四二年に至つて始めて移民數は一〇〇、〇〇〇を突破するに至つた。而して四〇年代の愛蘭土の馬鈴薯飢饉、及び一八四八年の獨逸革命の失敗の結果歐洲からの移民は非常な勢で増加し始めた。一八五一年乃至一八六〇年の十ヶ年間に實に二、五九八、〇〇〇人の移民が米國に安住の地を求めて渡來したのである。南北戰爭時代は移民は激減して七〇年代迄

もとの状態に復歸しなかつた。一八八一—一八九〇年の十年間は移民數は五、二四六、〇〇〇人の上つた。九〇年代には再び移民數は減退して三、六八七、〇〇〇人となつた。之れ主として合衆國に於ける財界不況の結果である。然し一九〇一—一九一〇年の十ヶ年は總ての以前の記録を凌駕するものであつた。即ち殆ど九、〇〇〇、〇〇〇に達したのである。

從來移民の最盛期が十年乃至二十年の間隔を置いて居ることは注意すべき現象である。即ち一八五四年は移民數四二七、〇〇〇人を示した最初の注目すべき最盛年であるが、それは一八七三年に至つて四五九、〇〇〇人の記録的移民を得るに至つて凌駕されて居る。一八八二年は次の最盛年で七八八、〇〇〇人の移民が流入して居る。而して一九〇三年は八五七、〇〇〇人で其の次の最盛年を爲して居る。然し一九〇三年以降一九〇七年迄は移民數は増加の一途を辿つて居る。かゝる移民數の變動は米國の經濟的景況に照應するものであつて、コンモンズ教授 Professor Commons の云ふ如く殆ど輸入の變動と一致するものである。この事は現代の移民が極立つて經濟的性質をもつことを極めて端的に示して居る。

實に、一九〇五、一九〇六及び一九〇七年には合衆國の獨立宣言當時の總人口を凌駕する數の移民が合衆國に流入したのである。即ち一九〇五年は一、〇二七、〇〇〇人、一九〇六年は一、一〇〇、〇〇〇人、一九〇七年には一、二八五、〇〇〇人となつて居る。然し盛期年度の移民統計からは約二五%を控除する必要がある。即ち約二五%は本國に歸還する者の數であつて、その殘數が正味の殘留移民と見ることが出来るのである。經濟不況並びに公共災害の年度にはその控除比率はもつと大きくならねばならぬ。世界大戰の四年間は合衆國からの流出民と流入民との數は殆ど相均しいものであつた。<sup>1</sup>

1 移民委員 Commissioner of Immigration の報告によれば一九〇四—一九一四年の十ヶ年間に合衆國に移住を許可された外國移民の數は一〇、二二二、〇〇〇人にして、一ヶ年平均一、〇二二、〇〇〇人に當る。一九一四年は一、二一八、四八〇人であつた。本章に於ては從來の移民最盛年一九〇七年を論述の對象とした。

一八九〇年以前は流入移民の殆ど總てが北歐諸國からの移民であつた。即ち殆ど九〇%迄はチュートン及びケルト系諸國から來たもので、従つて初期の移住者と殆ど同一血縁のものであると云はれて居る。然し一八九〇年以降は移民の性質が變化した。即ち其の年度以降は殆ど移民の七〇%は、露西亞・墺太利・匈牙利・伊太利及び希臘の如きチュートン系に非ざる諸國から來て居るのである。米國への愛蘭土移民の最盛期は四十年代五十年代であつた。獨逸移民の最盛期は五十年代と七十年代である。英吉利移民は七十年代と八十年代である。然し伊太利移民の最盛期は未だ何十年代と云ふて十年期單位で上げることが出来ない。米國への伊太利移民が一〇〇、〇〇〇を突起したのは一九〇〇年が漸く最初である。而して一九〇七年に二八五、〇〇〇人、一九一四年には二八三、〇〇〇人が伊太利移民であつた。之等の數は一ケ年に於ける歐洲何れの一國よりの移民數をも凌駕するものである。尤も墺太利―匈牙利若くは露西亞が米國にむけて送出する各種國籍の移民を一國民に一括して計算すれば別である。墺太利―匈牙利からの移民も亦一九〇〇年に始めて一〇〇、〇〇〇代を超過したのであるが、一九〇五年には二七五、〇〇〇人、一九〇七年には三三八、〇〇〇人に達して居る。露西亞からの移民は主として露系猶太人及び波蘭土人であるが、今波蘭土を露西亞に含めて計算すれば、一八九二年一二二、〇〇〇人の流入者を見せて以來重要なものとなつて來て居る。而して其後移民數は一たん減退したが一九〇三年には一三六、〇〇〇人、一九〇七年には二五八、〇〇〇人、一九一三年には二九一、〇〇〇人となつて居る。

## 二、「舊」移民と「新」移民

以上の統計は米國が移民を受けて居る其の給源の變化を示す爲めに引用したものであるが、この事は一八九〇年以前の代表的な年度とそれ以降の代表的な年度とを比較對照すれば一層判然として來るのである。一八八二年は一八九〇年以前に於ける米國への移民の最盛年である。即ち當該年に於て米國に七八八、〇〇〇人の移民を見

たのである。而して次に掲ぐる表が示す如く、移民の殆ど總てが北歐諸國から來て居るのである。四半世紀前の所謂「舊」移民と現代の「新」移民とを比較對照する爲め一八八二年と一九〇七年とを比較して見よう。一九〇七年は合衆國移民流入史上の最盛年であつて、實に同年度に於ける入移民總數は一、二八五、〇〇〇人に達したのである。

入 移 民 一八八二年

英國並愛蘭土	一七九、四三三	伊 太 利	三三、二五九	四・一%
獨 逸	二五〇、六三〇	奧太利、匈牙利	二九、一五〇	三・七%
スカンヂナビヤ	一〇五、三六六	露 西 亞 其 他	三三、〇一〇	二・七%
和蘭陀、佛蘭西、瑞西、其他	二七、七五	南及東歐羅巴計	一〇、五	一・〇%
西歐羅巴計	七・三	其 他 諸 國 (1)	一八・三	一・八%
			一〇〇・〇	

(1) 「其他諸國」の中九八、二九五人は英領北亞米利加よりの移民で全體の一・二・四%を占めて居る。之れを西歐羅巴よりの移民の七一・三%に加へると、一八八二年に於ける西歐羅巴系の移民は總計八三・七%となる。

入 移 民 一九〇七年

英國並愛蘭土	一一三、五六七	奧太利、匈牙利	三三、八四五	二六・三%
スカンヂナビヤ	四九、九六五	伊 太 利	二八、七三一	三三・二%
獨 逸	三七、八〇七	露 西 亞	二五、八九三	二〇・一%
和蘭陀、佛蘭西、瑞西、其他	二六、五二二	希臘、セルビア、ルーマニア其他	八、八四三	六・九%
西歐羅巴計	一七・七	南及東歐羅巴計	七、五・五	七・五%
		其 他 諸 國	六・八	六・八%
			一〇〇・〇	

一八八二年には七一・三%の移民は西歐羅巴の諸國より流入し、僅か一〇・五%が南及東歐羅巴諸國から來て居る事は注意すべきである。然るに一九〇七年にはこの状態は殆ど逆轉して居る。英國及び愛蘭土、スカンヂナビア、獨逸、和蘭陀、白耳義、及び瑞西——之等は一八八二年の我が入移民の七一・三%を供給した國々であるが——一九〇七年には一七・七%を供給して居るに過ぎない。然るに埃太利—匈牙利、伊太利、露西亞、希臘、セルビア、ルーマニア、歐羅巴土耳其——之等は一八八二年には僅か一〇・五%の移民を供給したに過ぎぬ國々であるが——一九〇七年には移民全體の七五・五%を供給して居る。米國の入移民の供源が斯くの如く變化した事實こそは、現代の合衆國入移民問題を考慮するに當つて極めて重視すべき事項である。

### 三、入移民の地理的分散状態

若し入移民が合衆國內に平均的に分散して行くならば、入移民問題は現在のそれとは全く異なる様相を呈したであらう。然し事實はこの反對であつて、移民は若干の州或は地方に集結して行き、移民が全國に平均的に分散して行く證據は殆どないのである。例へば一九〇七年の移民委員 The Commissioner of Immigrants の報告によれば、同年流入した一、二八五、〇〇〇の移民の中六五%は北部大西洋岸諸州に往住し、六%が西部諸州、四・五%が南部諸州に往住したのである。若し之等の數値が全く信憑すべきものとすれば、米國の最近の移民は北部大西洋岸諸州及び中部の諸州に集結して居ることを示して居る。國勢調査は移民委員のこの統計を裏書して居るが如くである。即ち一九一〇年のセンサスによれば、合衆國內に於ける外國生れの白人は一三、三四五、〇〇〇人、全人口の一四・五%となつて居るが、之等の外國生れの白人は殆ど全然北方の諸州に限られて居る。即ち北部大西洋岸の諸州及び中央部でも北方の諸州に限られて居るのである。一九一〇年には南方諸州（南部大西洋岸諸州及び中央部では南方の諸州）では外國生れの白人は全國の五・四%を占むるに過ぎない。斯くの如く南方には米國の

入移民がごく僅かしか定着しない理由は恐らくは、南方の低廉な黒人労働との競争がある爲めと、南方は尙ほ主に農業的であつて移民の大多數が求める工業方面の働口が少いことによるものと思はれる。一九一〇年には北部大西洋岸の諸州では人口の四分ノ一以上が外國生れであり、太平洋岸の諸州では二〇・五%が外國生れであつた。次の統計は代表的な諸州に於ける外國生れの白人の割合を示すものである。即ちロードアイランド三二・八%、マサチューセツ三二・二%、ニューヨーク二九・九%、コンネクテカツト二九・五%、ノースダコタ二七・一%、ミネソタ二六・二%、ニューヂャーシー二五・九%、ウイスコンシン二二%、カルフォルニア二一・八%、イリノイズ二一・三%、メリーランド八%、ミゾリ七%、インディアナ五・九%、ミシヅピイ〇・五%、ノースカロライナ〇・三%である。然し社會に及ぼす外國生れの者の影響は、外國生れの者の數のみを考察するよりも、外國系の者即ち外國生れの者と其の子供の數を調べた方が恐らくは一方よく分るであらう。多くの州では人口の半ば以上が外國系の者である。即ち一九一〇年にはミネソタでは人口の七一・五%は外國系の者であつた。ノースダコタは七〇・六%、ロードアイランド六八・七%、ウイスコンシンでは六六・八%、マサチューセツは六六%、コンネクテカツト六三・一%、ニューヨーク六三%、ニューヂャーシー五六・六%、ミシガン五五・五%、イリノイ五一・九%である。又モンタナ、ユター、カルフォルニアでも人口の半數以上は外國系の者であつた。一九一〇年に於ける合衆國全部の外國系人口の割合は三五%で、總人口九二、〇〇〇、〇〇〇の中三二、二四三、〇〇〇が外國生れの者であつた。又米國の多くの大都會でも外國生れの者及び其の子供の人口比率は極めて高い。一九一〇年に於ける若干の大都會の外國生れの者の割合を示せば次の如くである。

ニューヨーク	四〇・四%	ボストン	五五・九%	デトロイト	三三・六%
シカゴ	三五・七%	クレブラランド	三四・九%	サンフランシスコ	三一・四%
フィラデルフィヤ	二四・七%	バルチモア	一三・八%		
セントルイス	一八・三%	ピッツバーク	三六・三%		

又以上諸都市に於ける外國系人口の割合は次の如くである。

ニューヨーク	七六・六%	ボストン	五四・三%	デトロイト	七四・〇%
シカゴ	七三・五%	クレプランド	七四・二%	サンフランシスコ	六八・三%
フィラデルフィヤ	七三・五%	バルチモア	三七・九%		
セントルイス	七三・八%	ピッツバーク	六二・三%		

以上の數字は米國入移民が一定の州及び大都會に集結する傾向のあることを示すものである。外國生れの者の四分ノ三は都會に住んで居る。一九一〇年のセンサスによればニューヨーク市人口の一九%だけが土着の白人であつて、外國系白人の中八六一、九八〇人は猶太人、八四一、八八九人は獨逸人、五四九、四四四人は伊太利人であつた。

國籍別に見れば、比較的平均に全國に分散してゐるのは一國民だけで、それは英國人である。他の國民は總てそれぞれ特別の定着地帯をもつて居る。即ち愛蘭土人は主として北部大西洋岸諸州に定着し、獨逸人は二ヶ所に定着地帯をもつて居る。一つはニューヨーク及びペンシルバニアの地帯で、他はウイスコンシン及びイリノイ方面である。而して又ミシガン、アイオワ、ミゾーリにも多數の獨逸人が定着して居る。スカンデナヴィア人は主として北西の諸州、就中ミネソタ、ノースダコタ、サウスダコタに集中して居る。即ち以上諸州の外國系人口は多くスカンデナヴィヤ移民に基くものである。然し以上の諸國民は何れも米國と非常に類似した社會的政治的な水準と觀念を持つて居る故に、容易に米國民と同化するのである。然し南歐及び東歐より最近しきりに渡航する移民はしかく容易に同化しないのである。而して之等移民は自ら別個の社會を爲して集結して居ることはますます同化問題を困難ならしめて居るものと云はなければならぬ。一九一〇年の合衆國のセンサスによれば、伊太利生れの人口一、三四三、〇〇〇人中九九七、〇〇〇人即ち四分の三はニューヨーク、ペンシルバニア、ニュージャージー、

マサチユセツ、コンネクテカット、及びイリノイズに集結して居るのである。又塊太利—匈牙利生れの人口一、六七〇、〇〇〇人中一、二二〇、〇〇〇人即ち四分の三はニューヨーク、ペンシルバニア、ニュージャージー、イリノイズ、オハイオ及びマサチユセツに集つて居り、露西亞生れの者一、六〇二、〇〇〇人中、一、二六〇、〇〇〇人即ち四分の三以上の者はニューヨーク、ペンシルバニア、マサチユセツ、ニュージャージー、及びイリノイズの住民である。以上の統計は移民委員による行先地別統計とよく一致するものである。即ち標準年一九〇七年の行先地別統計は次の如き結果を示してゐる。同年米國に渡航せる伊語國移民は二九四、〇〇〇人であつたが、その中二二〇、〇〇〇人はニューヨーク州に、五三、〇〇〇人はペンシルバニアに、一九、〇〇〇人はマサチユセツに、一七、〇〇〇人はニューデチャーシーに定着したのである。又一九〇七年流入の波蘭人一三三、〇〇〇人中三三、〇〇〇人はペンシルバニアに、三二、〇〇〇人はニューヨークに、一二、〇〇〇人はニューデチャーシーに、一七、〇〇〇人はイリノイズに趣いたのである。以上四州はスラブ人の絶好の定着地である様に思はれる。一九〇七年渡來のヘブライ人は一四九、〇〇〇人であつたが、九三、〇〇〇人はニューヨーク州に、一五、〇〇〇人はペンシルバニアに、九、〇〇〇人はマサチユセツに定着した。即ち以上三州は最近の猶太人移民の絶好の定着地であるのである。

以上の數字から、最近の移民の集結状態は重大問題であることが分るのである。而してかゝる集結状態を放置して、米國民とは社會的傳統や觀念の異なる之等の新移民をアメリカの型に同化し得るかは疑問である。ある論者は米國に於ては何等由々しき移民の集結状態はなく、移民は普通の經濟的影響の作用を受けて其の勞働力を最も需要する處に自づと分散して行くものである。従つて移民が一定の社會に集結することに拘泥することはないと考へて居る。然し經濟法則若くは經濟力が米國の移民の分散を充分に調節するものと云ふこの見解は、日常の觀察や經驗から得た事實に反するものである。

## 四、各産業への移民の分散状態

米國に於ける不熟練労働者の割合は年により又國籍により非常に異なるけれども、最近の流入移民の五分の四は不熟練労働者と見て差支なきものである。移民委員の調査によれば一九〇七年に於ける移民總數一、二八五、〇〇〇人の中僅か一二、六〇〇人が専門職業階級に屬し、一九〇、〇〇〇人即ち約一五%が總ての職業を含めて所謂熟練労働者に屬するものであつた。然るに七六〇、〇〇〇人は農業労働者及び日雇労働者を含めて所謂不熟練労働者であつた。而して婦女子を含めて無職業の者三〇四、〇〇〇人となつて居る。この事を人種別に觀察すればコントラストは一層顯著になる。即ち、一九〇七年に於ける南部伊太利人の移民は二四二、〇〇〇人であつたが、其の中僅か七〇一人が専門職業を有する者であり、二六、〇〇〇人即ち一%が熟練労働者であつた。然るに不熟練労働者の數は一六一、〇〇〇人即ち六六%に及んで居る。又一九〇七年渡來の波蘭土人一三八、〇〇〇人の中僅か二七三人が専門職業家であり、八〇〇〇人即ち六%が熟練労働者で、一〇七、〇〇〇人即ち七七%が不熟練労働者であつた。然しヘブライ人の場合には熟練労働者及び専門職業家の割合はづゝと高くなつて居る。無制限移民政策に加擔する論者は、米國は現在大量の不熟練労働者の供給を必要とすることを論據とし、従つて又移民の多くが所謂不熟練労働者であると云ふことは反對の必要がないものとして居る。

一九一〇年の國勢調査によれば、外國生れの者の職業間の分配は甚だ不平均である。即ち、外國生れの者は人口の約七分の一を占めるのであるが、製造工業に従事する者の三分の一以上は外國生れであり、家事使用人の四分の一は又外國生れの者であつた。然るに農業に従事する者の僅か十分の一が外國生れと云ふことになつて居る。二つの政府委員會は外國生れの者が米國基礎産業に於ける労働力の約半分を占めて居ることを報告して居る。之等の基礎産業こそ低廉なる労働を最も需要して居るのである。而して不熟練外國労働者が多數存在して居たが爲

めに、アメリカの資本家達は、戦時の需要増加に當つてよく豫期以上に急速に其の産業を發展せしむることを得たのである。然しながらこの事は同時にアメリカ生れの労働者に取つては打撃となつた。即ち移民が多く流入する職業からはアメリカ生れの労働者は排除される傾向を生じたからである。

## 五、移民の與へた其他二三の社會的影響

(1) 移民が米國の性別人口構成に與ふる影響は疑もなく大きなものがある。一九〇七年に於ける移民總數一、二八五、三四九人の中九二九、九七六人が男で、三五五、三七三人が女であつた。長年の間合衆國へ流入する移民の約三分の二は男であつた。この事は合衆國の性別人口構成に甚大な影響を與へ、約二、七〇〇、〇〇〇人の男性人口超過の現象を招來したのである。性別人口構成の不均衡が如何なる社會的影響を與へるかをこゝに述べることは困難であるが、少くとも社會に於ける男女の數的均衡の重要性に鑑るときは、それが由々しき問題であり。且つ喜ぶべき現象でないことは明かである。

(2) 次表は一八〇〇年以降十年毎の合衆國の人口増加中移民に由るものと出生によるものとの割合を示すものである。<sup>(1)</sup>

(1) 之れは屢々引用される表であるが、事實を必ずしも正確に示すものとは云はれない、如何となればセンサスの年以前のものは移民の歸還者及び死亡者の數が差引いてないのである、例へば一九一〇年に終る十ヶ年に於ける合衆國の實際の人口の自然増加の割合は九・四五%でなくて約十五%である。然しこの表でも移民の増加に伴つて出生率が減退して居ることがほゞ分るのである。

一八四〇年迄は移民の増加は極めて少く殆んど目に立たない。従つてその計算もないわけである。

年 度	總人口 加 割 合	移民による 増 加 割 合	出生による 増 加 割 合	年 度	總人口 加 割 合	移民による 増 加 割 合	出生による 増 加 割 合
一八〇〇	三三・七〇			一八六〇	三三・五八	二・二三	二四・四八
一八一〇	三六・三八			一八七〇	三三・六三	七・三五	一五・三六
一八二〇	四四・〇七			一八八〇	三〇・〇八	七・二九	三三・七九
一八三〇	三三・五五			一八九〇	三三・五〇	一〇・四六	一五・〇四
一八四〇	三三・六七	四・六六	二・八一	一九〇〇	三〇・七三	五・八六	一四・八七
一八五〇	三三・八七	一〇・四四	三・八三	一九一〇	二二・〇三	一・五七	九・四五

この表に依れば、移民が合衆國の總人口を増加せしめたとは必ずしも確言し得ない。何となれば、人口の自然増加率の減退が移民の増加を伴つたかに見えるからである。従つてウォーカー教授 Professor Francis A. Walker の如きは、總じて移民が合衆國の人口を増加せしめたかは疑はしいと云ふて居る。兎も角米國の人口は大量の移民が渡來する以前に於ても、移民の流入の盛んになつた後年と同じ様に急速に増加して居つたのである。而して又、南北戦争後は事實上移民のなかつた南部諸州は北部諸州と同様に急速な人口増加を見たのである。即ち、南部諸州の白人人口増加は移民を受けて居た北部諸州のそれと同じであつたのである。以上二つの事實は、移民が渡來せざる場合には當然本地人口の自然増加にて補給さるべき人口數を移民が單に置き代つたのではないかと思はせるのである。

(3) 米國に於て過去五十年以上もの間實施せられた庶民教育の普及宣傳にもかゝはらず、合衆國に尙ほ相當數の無筆者があると云ふことには、移民が大いに關係を持つて居るのである。一九一〇年合衆國には十歳以上の無筆者が尙ほ五、五一六、〇〇〇人居たのである。之れは十歳以上の人口の七・七%に當る數字である。而して其中一、五三五、〇〇〇人は土着の白人であるが、一、六五〇、〇〇〇人は外國生れの白人であつた。合衆國土着白人の無筆者は殆ど全部南部諸州に居るのであるが、北部諸州の無筆白人は外國生れの者に限られて居る。即ちニユ

ニューヨーク州では五・五%が無筆者であるが、土着白人の無筆者は僅か〇・七%に過ぎないのに反し、外國人の一三・七%は読み書きの全然出来ないものであつた。諸都市の無筆者統計も同様の結果を示して居る。即ちニューヨーク市では人口の六・七%が無筆者であるが、土着白人の無筆者は僅か〇・三%なるに反し、外國生れの二三・二%は無筆者である。ボストンでは總人口の四・四%が無筆者であるが、土着白人は其人口の僅か〇・一%の無筆者を有するに過ぎない。然るに外國生れの人口の一〇%は無筆者である。一九〇七年の移民全部に就いて見れば、三〇%が無筆者であつた。又無筆者の數は移民の國籍によつて甚だ異つて居る。

この點に關して、南歐、東歐からの所謂「新」移民と北歐、西歐からの「舊」移民とを比較すると興味がある。一九〇七年に於て、南部伊太利移民の中無筆者は五三%、ルテニア人では五六%、波蘭土人では四〇%、シリア人では五四%、露系猶太人では二九%となつて居る。之れに反し獨逸移民では僅か四%、愛蘭土人では三%、英國人では二%、スカンジナビア人は一%となつて居る。無筆は移民に取つて經濟的に又社會的に由々しきハンデキャップであるばかりでなく、社會的同化を妨げるものである。無筆の結果移民の英語を學ぶことが極めて困難とあり、彼等のアメリカ化 Americanization を妨げるのである。従つて英語を話せない米國の人口數は無筆と密切な關係があるのである。一九一〇年のセンサスによれば、十歳以上にして英語を話せない者の數は、合衆國に於て三、〇九一、〇〇〇人と報告されて居る。然し一九一四年以降の多數の入移民の結果、現在はその數は之れより多いものと考へる。

#### (4) 犯罪と貧乏

犯罪は移住に伴ふと云はれて居る。然し一九一〇年迄のところでは米國の入移民は犯罪とさしたる正の關係を示して居ないのである。一九一〇年の特別刑務所統計によれば、男の白人犯罪者の二六・二%は外國生れである。而して十五歳以上の白人男子總數に對する外國生れの者の割合は二四・五%である。之れは外國生れの犯罪者の

割合が人口に對する外國生れの者の割合より左して大きくないことを示すものである。然し同じ統計によると一九一〇年に於ける土着白人犯罪者の三三・八%は其の兩親が外國生れの者である。然るに外國生れの兩親を持つ土着白人は全土着白人の二七・六%を占めるに過ぎない。従つて外國生れの者の子供が外國生れの者自身よりも犯罪の傾向が強い様に思はれる。この理由は恐らくは外國生れの者の子供は多く大都市、殊に大都市の貧民窟に長ずるが爲めであらうと考へられる。即ち外國生れの者の子弟が犯罪をすることの多いのは主として都市生活の産物であり、且彼等の新しいアメリカの環境の下で適當な兩親の監督を缺くが爲めであると思はれるのである。然し移民の中でもある國籍の者は殊に犯罪の傾向が強いのである。殊に南方伊太利人がそうである。例へば一九一〇年のセンサスによれば、一九一〇年の外國生れの殺人犯の三六・五%は伊太利人であつた。然るに一九〇〇年には伊太利人は外國生れの者の全人口の僅か九・九%を占めて居たに過ぎない。又一九〇七—一九〇八年ニューヨーク市では伊太利生れの者が犯罪者の二六・九%を占めたが、一九一〇年の伊太利人の人口を見るに同市全人口の僅か七%餘を占めて居るに過ぎない。

貧乏と扶助に關しては外國生れの者は一層好ましくぬ様相を呈して居る。一九〇四年の貧窮者特別統計によれば、養育院に居る貧窮者の中外國生れの者の割合は本土生れの者の約二倍になつて居る。又一九〇七—一九〇八年の移民委員の特別調査によれば、慈善施設の扶助を受ける者二八八、三九五人の中六〇、〇二六即ち約二一%が外國生れの者であつた。又精神病院の入院者一七二、一八五人の中五、〇七三即ち約二九%が外國生れの者であつた。一九〇七年—一九〇八年の外國生れの者は總人口の一五%をこえないから、慈善施設扶助者及び精神病院入院者共に外國生れの者が比較を絶して大きいことが分るのである。我國に於ける大都市の慈善協會 Charity Organization Societies の經驗は、總じてこれ等の事實を確證して居るのである。合衆國入移民者の大部分が持參金皆無か又はほんの僅かの所持金を携帶して入國することを思へば、上陸後日ならずして多くの者は少くとも

一時的の扶助を必要とすることは驚くに足らないのである。例へば長年の間露西亞からの移民の携帶金は一人當九弗乃至十五弗に過ぎなかつたのである。従つて、新國に於て經濟を立てる困難さも手傳つて、ある者は一時的にある者は長く移民の多くが多かれ少なかれ扶助を受けることになるのは必然と云ふべきである。

(1) この點に關しては尙ほ Fatrohid 教授の Immigration P. 311—327. 及び移民委員會 The Immigration Commission の報告參照のこと。

## 六、他國への入移民との關係

他の新國が開かれるに従つて合衆國の移民問題は自ら解決するであらうし、間もなく歐洲から多くの移民が、南米・南阿・濠洲に渡航し、米國は分前以上に移民を受ける危険はなくなるであらうと考へるむきもあつた。然し近年に至る迄、歐洲からの移民の流が之等の諸國に分散する傾向は殆ど否全然見受けられないのである。合衆國以外で移民を受ける主要國はブラヂル、アルゼンチン、カナダ及び濠洲である。ブラヂルは一八二〇年乃至一九一五年に總計三、三六三、〇〇〇人の移民を入れたのであるが、現在のブラヂル移民は比較的少いと考へられる。(一九一三年のブラヂル移民は一九二、六八四人に過ぎなかつた。)アルゼンチンは合衆國について最も多くの歐洲移民を入れて居る。即ち一八五七年乃至一九一五年にアルゼンチンは四、七〇九、〇〇〇人の移民を入れて居るのである。一九一三年の移民は三〇二、〇〇〇人であつたが、その中六〇%以上は伊太利、西班牙の移民であつた。其他南米諸國への南米移民は何れも大したものではない。一九一三年の濠洲移民は一四一、〇〇〇人であるが、大部分は英國の移民であつた。然し同年の濠洲からの出移民數は入移民數と殆ど同數であつた。又一九一四年が加奈陀自治領への移民は三四八、〇〇〇人であつたが、其の大部分は英國及び合衆國からの移民であつた。然し相當數の加奈陀人が國境を越えて合衆國へ流入して居るのであるが其の數は不明である。——即ち海港經由

以外の加奈陀より合衆國への移民の統計は一八八五年以來とられてないのである。従つて合衆國は戦前、他の世界各國の入移民者數總計以上の移民を一國で受入れて居たことは確かである。加之、前述せる如く近き將來に於て歐洲移民の流れが之等の他國に分散して行く傾向は殆ど否全く見えないのである。従つて合衆國の移民問題は過去の問題ではなく、將來の問題なのである。それ故に、米國入移民者を如何に適當に制限するか、又許可入移民者を如何に同化するかの問題は、米國國民生活の重大問題なのである。

## 七、移民制限論

米國より移民を全然排除すると云ふことは徳義上からも又政治上からも何等理由のないことである。移民を制限することと移民を禁止することは別問題である。移民に適當なる制限を加へると云ふことは、コンモンズ教授 Professor Commons の云ふ如く移民を改良 improve することなのである。

法律上合衆國が自國への移民を制限する權利あることには問題はない。若し米國の社會制度と國民生活とを可及的に人類の福祉になる様に發展させることが米國人の義務であるならば、米國の社會制度の最高最善の發達を阻害する様な社會要素をアメリカの社會から排除すること明かに米國人の義務でもあらう。勿論總ゆる移民の制限は一國の利己的立場にでなく人類の福祉に其の基礎を置かなくてはならない。而して人類の福祉は各國が其の國民と制度との安全と存續をひどく脅かす要素からそれ等を守ることが要求して居ることも亦疑なきところである。米國への入移民を制限すべしとする論據は大體四つに分つことが出来る。

### (1) 産業上の理由

移民の多くは低賃銀で働く。従つて、吾々が既に觀察した様に、競争の結果、土着の者はある産業からは全く排除されることになる。この事は疑もなく土着アメリカ労働者にとつて苦痛の種である。米國は一應、高率な保

護關税をかけてアメリカ労働者を歐州労働の不正な競争から保護することに熱心に努力して來たのであるが、他方これとは矛盾して多數の歐州労働者の流入を許し、米國內に於てアメリカ労働者と競争せしめたのである。移民の流入を放置して置いて最低賃金の維持或は其他のアメリカ労働者の生活標準を保護する手段を講ずることは不可能である。然しながら他方に於て、吾々が既に觀察した様に、低廉なる労働が豊富に供給されたればこそアメリカの資本家達はアメリカの産業を極めて急速に發達せしめ、多くの場合世界市場を制覇し、米國の富を大いに増大することが出來たのである。従來、移民に大制限を加へることに反對して來たのは主として労働の大雇傭者及び船會社であつた。而して議會に於ける彼等の勢力を利用して嚴格な移民制限法の通過を妨げるのに成功して來たのである。産業上の理由のみから移民問題を考へるならば、大體に於て恐らくは移民無制限論に傾く結論に歸着するであらう。然し産業上の理由のみが移民問題を考へるに當つて考察すべき總てではない。かゝ一面的な考へ方は從來この問題を論ずる多くの者の犯した大きな誤謬の一つである。

## (2) 社會上の理由

最近の米國移民の大部分は少くとも社會的に同化するのが極めて困難な人々である。彼等は黨派的であつて、同族のみの植民地を作る傾向がある。而して其の植民地では彼等の言語、習慣、觀念が保持されて居るのである。社會生活に於て大きな役割を演ずるかの「同類意識」consciousness of kindは、彼等を融合せしむる一方、同時に他のアメリカ國民より彼等を分離特立せしむる作用を爲すのである。この事は特に南歐、東歐よりの無智の移民に見られる現象である。既に吾々が觀察した様に、最近の移民のある者では無筆者の率が極めて高く、彼等が米國の社會生活に參與することは殆ど期待出來ない状態である。果して斯くの如き異民族、異國籍民の植民地が米國社會生活並社會制限に如何なる影響を及ぼすかは充分なる豫想をゆるさぬところであるが、少くともよい影響は及ぼさぬと思はれる。尤も小學校は最も同化し難い移民の子弟をもアメリカ的觀念や標準に同化するに大い

に力あるは否定出来ないものであるが、畢竟小學校は完全な社會化の機能を營む機關ではないのであつて、之等の移民の子弟が通學した場合でも、多くの場合には學校から米國最高の文化要素を吸収することが出来ず、依然として其の考へ方に於て其の行動に於て根本に於いて同化しないのである。

### (3) 政治上の理由

従つて之等の移民の多くは米國の自由なる社會制度を理解し享受することが出来ないのである。彼等は知識的判斷に基いて投票するには不向である。而も彼等は歸化前に既に投票權を有することは珍しくなく、米國の有権者の大きな割合を占めるのである。殊に大都會に於てこの傾向が強い。一般に彼等は投票を賣らないけれども、少數の指導者の統制下にあることが多く、屢々政派間の勢力を左右することが出来るのである。かゝる状態の下では米國特有のデモクラシーがうまく運用されるか疑はしい。從來デモクラシーは公民が精神的道徳的に一定の程度の類似性をもつ社會、即ち社會成員があまりに異質的でない様な社會に於ての成功した事は注意すべきである。

### (4) 種族上又は生物學上の理由

合衆國への移民をもつと制限すべしとする理由の中で最も強いのは疑もなく生物學上のそれである。現在米國に流入して来る民族は以前とは異なる種族のものである。彼等は白人中のスラブ及び地中海系の者である。而してスラブ及び地中海系の者は北歐、西歐の民族と異つて從來、自治並自由主義的の制度をしく能力を示したことの無い民族である。彼等が北歐、西歐の民族と同じ自治の能力を有するかどうかは疑はしい。加之之等民族の社會生活及び社會思想の全歴史を通覽するに、彼等は過去に於てアングロサクソン系とは全く異なる發達をして居ることが分るのである。勿論、遺傳が物を云はなければ之等民族の子孫は數代にして同じアメリカ人に化するであらう。

然しこれは疑問である。果して、遺傳が作用を及ぼさないか。又は血が物を云ふか。行動の習慣、従つて社會生活は、多かれ少なかれ民族の生物學的遺傳に依存するものであるか、或は斯くの如き生物學的影響から全く獨立し

て居るものであらうか。この問題に關しては意見が非常に分れて居る。然し民族的遺傳は、同じ白人でも系統を異にすれば、重要な要因であり、充分考慮すべきものであるとするのが、恐らくは最も信すべき考へであらう。例へば南部伊太利人の如きアングロ・サクソン系とは非常に異なる民族の遺傳をもつ民族が従來のアメリカ國民と全く同じに米國の社會制度や社會生活を維持することが出来るとは殆ど考へられないのである。ラテン氣質がチエトン氣質と全然同じに社會的に表現されると考へることは出来ない。確かに南歐、東歐より多くの移民が米國に來れば結局米國民の體質を變化せしめ、延いてはその状態が放置される限り米國の精神生活、社會生活をも變化せしめるであらう。然しこの事が望ましいことであるかどうかは各人の判斷に委さねばならない。

生物學上より見たもう一つの理由は選擇の必要と云ふことである。即ちいやしくも米國民の血液の中に南歐、東歐の被壓迫民族の墮落した穢點を入れない様にしようとするならば當然この事は問題になるのである。總ての生物學者が實際的に認めるところであるが、選擇が民族生活に重要な作用を及ぼすものであるなら、確かにアメリカの國民は將來のアメリカ人の兩親に誰れがなるかを決定する爲めに大規模な選擇を行ふ機會に際會して居るのである。民族的理由からある民族の移民を排除することが望ましくなくとも、米國民は總ゆる民族から米國の生活に組入れて最も利益となる様な分子のみを選択することは確かに望ましいことである。従つて生物學上の理由からすれば、何人を米國に流入せしむるかに關して嚴格な選擇を施行することが重要であることを認めざるを得ないのである。従來、合衆國への移民から適當な健康と體格とを有するもののみを選択すると云ふ様なことは殆ど何もやつて居ないのである。従來やつて來たことは極端に不適當の者を拒否すると云つた程度に過ぎなかつた。

## 八、移民政策の再建

米國の移民政策の適當な建て直しに必要なことは移民の入國を適當に制限するばかりでなく、移民が入國後確實にアメリカ化する様に積極の方策を加へることである。第一の點に就いては、從來米國の移民許可に關する法律が甚だ非科學的であつた事を認めなければならぬ。一九〇七年の移民總數一、二八五、〇〇〇人の中、不適當なりとして入國を拒否された者は僅か一三、〇六四人即ち一%餘に過ぎない。最初の一般的制限法が通過した、一八九二年以降一九一三年迄に排除階級に屬するものとして入國を拒否された者は總移民の一%弱であつて、健全な社會的、科學的見地から見ればまことに不充分的な選擇と云ふべきである。然しながら一九一四年の一、二一八、〇〇〇人と云ふ大移民から始つて、大戦中は、全體の三%乃至八%が年々入國を拒否されて居る。

大戦中に合理的の移民政策に大きな一歩を進めたのは一九一七年の移民法制定である。同法の制定したことは色々あるが、中でも十七歳以上の無筆移民（何等かの言語を讀み得ざる者）を排除した事は注目すべきである。この點に關しては議論が多いのであるが、社會學の見地から見れば明かに賢明な策である。讀む能力を有すること、従つて一體としての社會生活に多かれ少なかれ參與すると云ふことは、社會的同化に必要な基礎要件であるばかりでなく、社會進歩の土臺を爲すものである。デモクラシーは輿論政治を意味する。然るに現今輿論を作り傳播する主な手段は新聞である。従つて讀む能力を有せざる者はデモクラシーに參與し、殊にその合理的な發達を招徠することは殆ど出来ない。加之無筆の移民は人から酷使される傾向が最も強く、己れ的环境中に順應することが極めて難しいのである。結局、無筆者検査は歐洲の教育的社會的狀態によい影響を及ぼすであらうと考へられる。又同法は、宗教上の壓迫から逃れて來た者は検査を免除されることを規定して居る。純粹な政治犯人移民の妻及娘、五十五歳以上の一定近親者も同様に検査を免除されることになつて居る。

然し無筆者検査は移民の統制手段として甚だ不完全なものとして考へられる。少くも結局に於てこの手段で排除するのはごく少數であつて、之れだけでは移民を合理的に選擇する基礎として不充分である。即ち經濟的調整が同

化を成功せしむる基礎的要件である。従つて移民を科學的に統制するには先づ第一に勞働の需要其他の經濟的條件を考慮に入れなければならないのである。この爲めには永久的な移民委員會が豫め毎年米國で必要とする勞働を計算するのが最もよい方法である。

合衆國に永久に定住する爲めに渡來し、公民とならうといふ意思を表白する者には優先權を與ふべきである。現今の移民は大多數歸化して公民となり得なかつた。従つて合衆國が大戰に参加した當時は米國民の成年男子の殆ど一割は外國人であつたと計算されて居る。確かに歐洲諸國の豫後備兵士の入國を無制限に許可することは理由のないことである。合衆國在住外人に關する問題は、聯邦事務局が在住外人を登録せしめ彼等がアメリカ公民となる迄其の足跡を尋ね得る様にすれば、最もよく處理し得るであらう。

現在の検査は續行すべきである。而して一層嚴格な生物學的社會學的適性検査を行ふべきである。勿論検査はすべて移民の上船港で移民検査官が強制的に行ふべきである。蓋し制限法運用に無用の困難を生ずることを防ぐ爲めである。

總ゆる移民法の指導精神を爲す一般的原理は、國民生活に完全に同化し得る數だけの移民を入國せしむると云ふことである。かゝる理由から、各國民に就て一ケ年に許可すべき最大移民數は、既に歸化した人數の一定率（即ち五%乃至十五%）でなければならぬ。而して其の比率は委員會が勞働の需要其他米國の種々の事情を參酌して一定範圍内できめることにしなければならぬ。この方法が、既に述べた移民検査と併行されるならば、現在考へ得る移民統制の最も科學的法律となり得るであらう。

## 九、アメリカ化の方法

移民を適當に選擇する問題より一層重要なのは、入國を許した移民を如何に同化するかと云ふ問題である。米

國民が同じ一國の同朋として何人を入れるかと云ふことに關し如何に注意深くしても恐くは注意深過ぎると云ふことはないのであるが、何人と米國の運命を共に分つかと云ふことも極めて慎重に考慮すべき問題である。移民に對する米國民の態度は積極的援助的であるべきで、消極的であつてはならない。然し、移民に對する取扱ひは從來はどちらかと云へば消極的のものであつた。これは從來米國移民政策の特徴たる一般的自由放任主義（シムセツル）的態度に基くものであつて、この問題に對する米國民側の取扱方の利己主義と感傷主義とを表明して居る。この感傷主義と利己主義とによつて、總ゆる種類の歐洲移民に對する門戸開放主義が維持されて來たのである。然し移民の到來後は、彼等の勞働が雇主から利己的な搾取を受けようと、又大都會の貧民窟に住ひ其處で彼等の子弟を養育しようが爲すがまゝに放置して平氣で居たのである。換言すれば移民に對し眞の意味の温情と、彼と其の子弟に對する責任感とを缺いて居たのである。實際、多くの移民は、故郷に止つて居たならば決して經驗しない様な困窮と害惡とをアメリカの生活では嘗めざるを得なかつたのである。

米國の移民に對する建設的政策に先づ必要な機關は地理的にも産業的にも一層合理的に移民を分配する爲めの聯邦事務局であらう。之れに就いては、聯邦政府と各州政府との間、政府と雇傭主及び職業紹介業者との間の協力が必要である。而して政府は雇主及び職業紹介業者が移民を搾取しない様に監督をしなければならぬ。經濟的調整が移民をアメリカ化するに必要な第一歩である。

次に之れと同様に重要なのは小學校の移民及び其の子弟をアメリカ化する作用である。移民が相當數居る社會にはすべて成年移民に英語、商業、公民を教へる夜學校がなければならぬ。外國生れの者の子弟には小學校は從來よりも一層、社會、政治教育、殊にアメリカの社會的政治的觀念の教育に特に注意を拂はなければならぬ。然し之れは、アメリカ人の子弟にも均しく必要なことである。

最後に、移民の分配、經濟的調整、教育、一般の社會的調整の仕事に關し多くの民間團體側の援助を考慮をし

なければならない。移民援助會、基督青年會、教會、慈善團體等は移民をアメリカ化する適當な機關の設けられる迄爲すべきことが非常にあるのである。然し結局大切なことは移民に對するアメリカ國民の全般的態度を變へることである。米國民は米國に一國の同朋として入つて來る者に彼等と同じ機會を與へ、彼等と平等の立場で受け入れようとしなければならない。

### 主なる参考書

- Fairchild, Immigration, Chaps. XVII—XVIII  
Ross. The Old World in the New, chaps. IX—XI  
Warne. The tide of Immigration, Chaps. XXVIII—XXX  
Abbott, The Immigrant and the Community  
Bogardus. Americanization.  
Commons. Races and Immigrants in America  
Hall. Immigration and its United States  
Hourwich, Immigration and Labour  
Gens and Lanck, the Immigration Problem, Revised Edition  
Mayo-Smith, Emigration and Immigration  
Roberts. The New Immigration  
Ross. Social Psychology, chap. XIII  
Steiner. The Immigrant Tide.  
Warne. The Immigrant Invasion  
Report of the Immigration Commission, 42 Vols.  
Annual Reports of the Commissioner-General of Immigration